

## 4. 研究成果の発表

### 4.1 成果の発表

#### <研究所出版物>

1. 東濃地震科学研究所報告, 46, 地殻活動研究委員会報告 (令和2年度)

#### <学会発表等>

1. 光井能麻・浅井康広・板場智史、歪変化の空間分布に基づく短期的スロースリップイベント発生源モデルの再考、JpGU-AGU Joint Meeting 2020:Virtual、SSS14-P20、2020年7月
2. 光井能麻・吉武久美・中川和之、小学校における断層教育の事例報告—心の減災効果を加味した防災教育の検討に向けて—、JpGU-AGU Joint Meeting 2020:Virtual、G02-P04、2020年7月
3. 光井能麻・板場智史・浅井康広・松澤孝紀・松本則夫、開口変位を考慮した短期的スロースリップイベント発生源モデルの推定、日本地震学会 2020年度秋季大会、S03P-04、2020年10月
4. 石井 紘・浅井 康広・笠原 稔、変位拡大システムの開発と適用例—小型歪地震計の製作—、JpGU-AGU Joint Meeting 2020:Virtual、SSS17-01、2020年7月
5. 浅井康広, 石井 紘, 2020, 瑞浪超深地層研究所立坑埋戻しに伴って予想される岩盤内応力変動の観測, 日本地球惑星科学連合 2020年大会, SCG67-03, 2020年7月
6. Murakami Osamu, Asai Yasuhiro, and Ishii Hiroshi, Ultra-microearthquakes observed at Mizunami Underground Research Laboratory, JpGU - AGU Joint Meeting 2020: Virtual, SSS09-P05, 2020/7/12-16.
7. 田中俊行, 鉛直重力計アレイ観測による地下深部引力変動検出の試み, 日本地球惑星科学連合 2020年大会(オンライン, ポスター). SGD02-P05, 2020年7月

#### <論文>

- 石井 紘・浅井康広、2021、地下水流動によって明らかになった NNW 断層と歪変動の関連性 — 湧水・排水の場合 —、{地震} 投稿中
- 石井 紘、地震予知計画開始 (1965年) 以来の地殻変動連続観測の流れとわかってきたこと、「測地学会誌」投稿中

## 4.2 最新研究発表会

### 第1回 2020年6月23日(火) 10:30～

- ・川崎一朗

「飛騨上高地群発地震を引き起こしたものは何か？」

- ・佐野 修

「応力計の応答特性について」：(応力計記録が有効応力変化に比例している証拠の提示および、感度特性を求める数値計算時の境界条件を紹介)

### 第2回 2020年9月16日(水)14:00～

- ・光井能麻

「開口変位を考慮した短期的スロースリップイベント発生源モデルの推定」

- ・石井 紘

「地震予知計画開始(1965年)以来の地殻変動連続観測の流れとわかってきたこと」

### 第3回最新研究報告会 2020年10月21日(水) 13:00～

- ・川崎一朗「1998年と2020年の飛騨上高地群発地震～時空間的に分離した活動域の移動現象～」

いずれも、オンラインとオフラインの併用開催。